

運行管理者試験の 「難易度がアップ」

東海地方の運送事業者が時代の変化を感じるのは、運行管理者試験の合格率低下だ。

直近の8月23日実施

の受験者数(貨物)は3万2511人で、合格者数は1万5678人、合格率は48・2%と5割を切っている。

合格率が過去最低となったのは昨年の第1回で合格率24・1%だった。

試験は選択式で1問1点の30点満点。一定の点数(6割)をとれば合格できる仕組みだが、最近受験した運送会社の社員は「合格率が下がっているのは、試験問題が難しくなっている証拠ではないか。(出題者が)引っかけようとする意図が見える問題もあった」と話す。かなり以前に合格した運行管理者資格の保有者も「いま受験したら合格できるか分からない」と漏らす。

過去最低の合格率が記録されたのは、トラック運送事業への新規参入者に「法令試験」が導入された直後。事

業者の法令違反による重大事故増加を防ぐ意味合いから、法令試験が導入されたのとはほぼ同じ時期だった。

法令集などの書籍類が「持ち込み可」にもかかわらず、合格率は高くない。中には複数回連続で不合格だった事業者もいる。「それまでが、いかにレベル

の低い者に新規参入させていたかを裏付けている」とする声もある。ある事業者は「新規事業者にコンプライアンスを求める手段が法令試験ならば、運行管理者試験の難易度アップは既存事業者に、それを求めているのではないか」と分析している。

(中道幸男)